

今回の出席者には元気な人が多く、また「45m 電波望遠鏡」が人里はなれた内陸高原地帯にできた場合の鍛練ということもあって、3日目の朝、会場（愛岳ヒュッテ）から南西3kmほどの「しし岩」登山を決行した。まだ日も昇らぬ朝の6時半に出発。野辺山太陽電波観測所の160MHzを複合干渉計のアンテナのたちならぶ厳寒の雪の野辺山原を20人以上が踏破して意気さかんであった。注意ぶかい統計によると、出席度は年令には全く依存していなかった。

4. おわりに

今回のシンポジウムは話が具体的でシミュレーションとしての役はかなり果たし得たと思っている。シンポジウムのまとめにひきつづいて拡大運営委員会と拡大建設ワーキンググループがひらかれた。シンポジウム細部は集録を参考にさせていただくとして、この記事はここで筆を置く。御容赦願いたい。

このシンポジウムは総合研究(B)の研究費によった。研究代表者の小平氏(東大理)には細部にわたって面倒をみていただいた。またプログラム委員会(模擬)の諸氏には開催準備から最後のどたん場まで御世話をいただいた。これら諸氏に感謝の意を表する。

* * *

(119頁より続く)

れる赤外線天文に対する“望み”だけで、あとは何もありません。とくに、近い将来にも、戦になるだろう遠赤外、サブミリ波領域(波長 $10\mu\sim 1\text{mm}$)にどう向ったらよいか。また、地上も、1m級のゲリラ戦ではなく、一流の望遠鏡が向けられる正規戦が始まるでしょう。オーストラリアの新鋭A.A.T 153インチも、デビューを赤外線が飾る予定だとのことだし、ラスカンバナス1m(チリ)、マウナケア224cm(ハワイ)、テネリフェ150cm(イギリス)は専用もしくは主力を赤外において活動を始めたという話だし、ちょっと太刀打できるか悲観的です。しかし、A.I.R.O.は、あと1~2年の間を正念場として、この1m赤外線望遠鏡で、向おうと考えています。そして、人前に問うて恥づかしくない観測データを、何とか出せるようにと小さな私たちのグループは願っています。さて、時間もだい分過ぎました。今日の食事当番に当たっていますので、ここらでペンを置きます。今から、献立を考えて、町のスーパーマーケットに買物にでかけます。寒さも厳しくなりました。そちらの観測も大変でしょう。どうぞご自愛ください。

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価240円(〒45円)76 — 5月号・4月5日発売!

●5月号のおもな内容

- ★昨年11月、瀬戸内海に落ちた石は各方面の話題になりましたが、突然大火球を見たらどんな観測をしたらよいか。大火球の観測の注意を、科学博物館の村山定男氏に解説していただきました。
- ★月はじめのゴールデンウィークの最中、みずがめ座の流星群が極大になります。条件は最高、夜明の観測。
- ★最近103aというフィルムを使って撮影が盛んです。ベテランの藤井旭氏の上手な使い方をお読みください。
- ★自分で天体写真を撮影するための赤道儀を作るには? 今月の工作は、ポータブル自作赤道儀の作り方です。

火星

パトリック・ムーア 共著
チャールズ・A・クロス
斉田 博訳

火星には運河がある、火星人がいるらしいなど、この星は昔から話題の豊富なロマンに満ちた惑星です。宇宙探査船マリナー号は、火星の上空をまわり多数の写真を撮り、観測をして、地球へ送ってきました。

本書はアメリカ・ソ連の最新の情報、資料を使って描き出した火星の紹介です。運河はないのか? 火星の極冠は氷か炭酸ガスか? ●A4判・2800円・好評発売中!

星のふるさと

星と空を愛する一主婦の体験をまとめた小さな本です。第一部「炎の上の火星」は、コンビナートの炎の上に昇る火星を観測したさいに、観測ノートに記した美しい星空への願いです。第二部「星のふるさと」は、少女の頃に星と親しむため、あの星、この星との出会いを短文につづたしおりを、構成したものです。ユニークな読物形式です。 ●鈴木壽子(文)・B6変・550円・好評発売中。

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京7-6294 電話03(292)1211